

姫路港に外国客船

早速クルーズ協の効果

観光活性化に期待ふくらむ

姫路港に1日、大型豪華客船が初入港、乗船者は短時間ながら姫路観光を楽しむ。国際観光都市を標榜する姫路市にとっては、海外からの観光客の訪れは朗報だが、

方では今後の対応が課題となる。入港したのは、バハマ船籍の「オイローパ」(2万8710トン)。乗客はドイツ人が主の303人で、日本人も10数名。乗組員は船長以下270人。

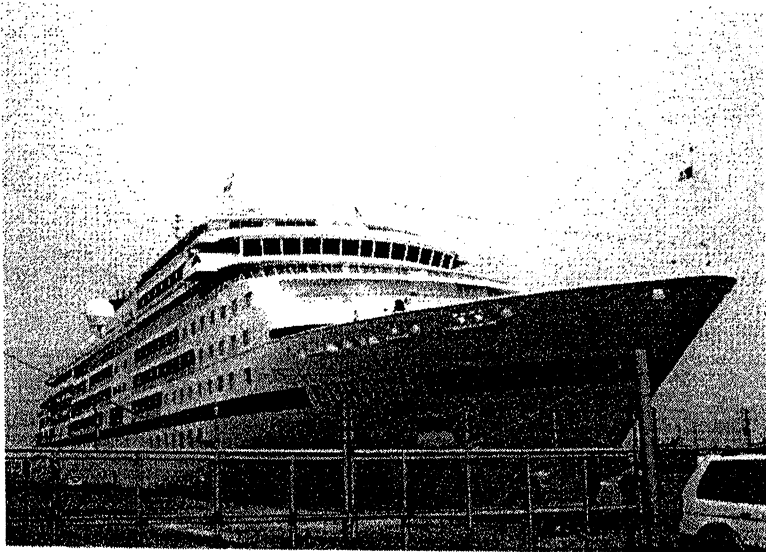
台湾を巡航、アジアを巡り釜山へ帰港する国際豪華クルーズ船。福岡県西方沖地震により日本での寄港ルートが変更、姫路港への寄港となった。

飾磨埠頭南端に接岸した同船上で、関西クルーズ振興協会に加盟する姫路港振興協会などの主催で歓迎セレモニーが開かれ、船長や乗客代表に記念品、飾磨海運女子社員から花束が贈られた。4時間後には出航と

あわただしかったが、観光乗客らは時間を惜しみながら姫路城観光などを楽しんだ。

クルーズ観光は観光のなかでも行程、値段などハイクラスながら、最近静かなブームを呼んでおり、数百万円という高価な旅行商品でも完売が早く、一度経験するとリピーターになる(旅行エージェンツ)といい、国土交通省でもクルーズ観光振興に力を入れている。関西圏の観光地、港湾が連携し、クルーズ客船を誘致して観光振興を図り、経済活性化の起爆剤にと04年3月に「関西クルーズ振興協会」が発足、今年2月には姫路港振興協会、姫路商工会議所、姫路コンベンションビュローが加盟している。今秋には、クルーズ人口拡大をはかる「クルーズの魅力」や、寄港地としての「クルーズ振興のあり方」を模索する「関西クルーズセミナーin姫路」の開催が予定されている。地元関係者は「姫路港は重要特定港湾。従来の物流の拠点から、国内はもと

より世界の観光客の受け入れという新しい人の流れもプラスされれば、姫路港だけでなく観光産業の活性化に結びつく(水田裕一郎飾磨海運専務)と期待している。



姫路港に初入港した豪華客船「オイローパ」